

障害者就労継続支援 B 型ワークセンターファースト

事業の統括

土佐厚生会の会是である、「愛情」・「奉仕」・「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努め、障がい者が働きながら地域において自立した生活ができるよう、主体的意欲と、作業能力を尊重した支援計画を作成している。利用される方々が安全で安心できる日常生活を営むことができるよう、各スタッフが連携を取りながら下記の目標の達成に努力をした。

1 活動援助

生産活動時間は、9 時 30 分から 16 時の 5 時間 30 分とした。

利用者個々の障害特性に配慮し、利用者本人の働く意欲と作業能力を尊重し、所得の向上を目指した作業の確保や生産に努めるとともに、一般就労を希望する方には資格取得と実習の支援も行った。

2 生産活動、健康管理

利用者個々の心身の健康状態を常に把握するとともに、日常生活を送るうえでの必要な金銭管理や対人関係の指導・援助を行ないながら、自立した地域生活が送れるよう支援を行った。

3 個人情報保護と虐待防止の遵守

個人の尊厳を旨とし、業務上知り得た利用者の個人情報は「土佐厚生会個人情報保護の基本方針」に従い厳重に管理し、利用者に対する虐待を防止するための必要事項を定めた「土佐厚生会虐待防止委員会運営要綱」を確実に遵守するとともに、虐待の防止に当たっては、「虐待防止マニュアル」に沿って、迅速かつ適切な処置を講ずるよう努めた。

4 環境の整備

安全で安心できる生産活動を行なうために施設内外の改修、美化及び整理整頓に努めるとともに、作業場の換気及び感染症対策等、安全衛生管理に努めた。

5 業務改善提案表彰制度への取り組み

施設内外の業務内容についての手法や手順、業務環境及び安全管理に対して常に気づきや問題意識を持ちながら、ムリ・ムラ・ムダをなくすための発想転換や創意工夫を行った。平成 25 年度は 31 件の改善提案を行ない、組織の活性化を目指した。

事業の概要

1 適切な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上

(1) 利用契約の状況は次のとおりであった。

平成 26 年 3 月 31 日現在

障害の程度 区分	身障	精神	知的	身障・知的	合計
契約者	2人	4人	3人	1人	10人

(2) 職種、職員定数など配置基準を遵守し、優秀な人材の確保と職員の資質向上のための研修にも積極的に参加した。

職員の配置状況は、次のとおりである。

平成 26 年 3 月 31 日現在

職種名	所長	サービス 管理責任者	事務主任	生活 支援員	職業 指導員	パート 運転手	合計
職員配置数	1(兼)	1(兼)	1(兼)	1	2	1	6

提供する福祉サービスの質の向上をはかるため、施設内研修のほか、系統的且つ効果的な研修に参加をし、スタッフの資質向上に努めた。

研修内容	実施年月日	場所	人数	対象者
中堅職員研修会(第二日目)	平成 25 年 4 月 24 日 (1 日)	サンピアセリー ズ	1	支援員
中堅職員研修会(第三日目)	7 月 31 日 (1 日)	サザンシティー ホテル	1	支援員
平成 25 年福祉サービス苦情解決セミナー	9 月 6 日 (1 日)	ふくし交流プラ ザ	1	施設長
平成 25 年度社会福祉主事資格認定 通信課程スクーリング	10 月 11 日 (5 日)	神奈川県 中央福祉学院	1	支援員
第 43 回中国・四国社会就労センター 協議会職員研修会	11 月 28 日 (2 日)	文化プラザカル ポート 高知パレスホテ ル	3	支援員 指導員
平成 25 年度高知県身体障害(児)者施 設協会作業部会・高知県社会就労セン ター協議会合同職員研修会	平成 26 年 1 月 10 日 (2 日)	高知会館	1	施設長
平成 26 年度社会福祉施設総合保険 制度説明会	2 月 25 日 (1 日)	ふくし交流プラ ザ	1	支援員

業務改善提案表彰制度を活用し、施設内・外の作業（業務）内容についての手法や手順、作業環境及び安全管理に対して常に問題意識を持ちながら改善を図り、利用者支援の向上と業務の省力化を図った。

（平成 25 年度、業務改善提案件数 31 件）

諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

ア 施設運営関係

会議名	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能。主な議題等
朝のミーティング	出勤日朝	毎日	有	全職員	当日の活動内容、出欠の確認 連絡事項伝達
職員会	月 1 回	12	有	全職員	施設運営全般に関する連絡、調整 個別支援計画
安全衛生委員会	月 1 回	12	有	所 長	安全と保健衛生に関する協議 業務改善提案審査
虐待防止委員会	2 ヶ月 1 回	5	有	所 長	国府ゾーンにおける利用者に対する虐待 防止マニュアル作成、啓発活動の検討

イ 利用者サービス関係

会議名	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能。主な議題等
利用者懇談会	月 1 回	12	有	利用者 全職員	利用者職員との相互意見交換会
施設運営委員相談日	2 ヶ月 1 回 (奇数月)	6	有		年 6 回、担当委員（大豊町知的障害者 相談委員）による相談受付

2 利用者が安全で安心して作業や利用することができる環境整備の充実とその維持管理

(1) 環境の整備

当初から建物に付随する空調設備（大豊園と共有）は使用時の期間制限があり、その不自由を解決するために単体で空調設備（中古）を設置した。

施設内外の美化及び整理整頓に努めると共に、作業場の換気及び感染症対策等、安全衛生管理に留意し、特に新型インフルエンザやノロウイルス等の流行期には感染症対策マニュアルに沿って適切な予防と対策を講じた。

11 月～3 月まで、毎週月曜日始業前に施設内の消毒を実施した。

(2) 冬期における送迎車の安全運転管理

中山間の冬場の厳しい自然環境（積雪や早朝の道路凍結等）に対応するために、12 月初旬から 3 月初旬までの約 4 ヶ月間、施設管理車両はスタットレスタイヤを装着させ、スリップ事故などの防止に取り組んだ。

(3) 施設の災害や利用者の事故防止など、安全対策の徹底を図った。

非常災害時に備えて、隣接の「大豊園」との連携を深め、合同で訓練を実施した。

防災、地震避難訓練等の実施内容は下記のとおりである。

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導 訓練	23日						23日						2
消火訓練	23日						23日						2
図上訓練													
夜間訓練													
防災地震 訓練	23日						23日						2

施設整備の管理や防災上で重要な場所、または火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにした。

業務上の各種マニュアルを整備して、利用者の安全、保健衛生の徹底に努めた。
害虫駆除（ゴキブリ）を定期的に行なった。

3 就労支援活動、自立生活へ向けての生活支援

(1) 個別支援計画書に基づく自立生活の支援と便宜の供与に努めた。

利用者個々のニーズと特性に応じた個別支援計画書の作成を行い、適切な支援に努めるとともに必要に応じて見直しを行なった。

作成した個別支援計画は、利用者およびその扶養義務者に十分な説明を行い、同意の確認をした。

行政機関等へ提出する申請書や書類への記入の手伝いや、就職の準備のための資格取得講習会、実習の計画を担当者との話し合いのうえ、利用者が地域において自立した生活ができるようになるための助言や支援を行った。

開所時は3,000円であった工賃を段階的に、10,000円まで引上げることができた。
現在は10,500円である（作業時間を30分延長）。

職員は、利用者およびその扶養義務者の人権尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人情報には他に漏らしてはならないことを徹底している。

(2) 苦情解決の窓口は次のとおりである。

当施設に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「施設運営委員会」を設置して、ご意見箱（1か所）を設け、苦情などの受け付けのほか奇数月（年6回）には相談日を設けた。

苦情解決責任者と申出窓口は次のとおりとした。

苦情解決責任者	所長
苦情等の申出窓口	生活支援員

(3) 利用者の生活支援

入退所に伴い、医療、保健、行政その他関連サービス機関への連絡、調整に伴う支援を行った。

日常生活や社会生活上の相談助言等、ケースに応じた支援を行った。

利用者の地域交流や趣味活動のため下記の行事を行った。

時 期	行 事	備 考
平成 25 年 4 月 2 日	春のクラブ活動・花見	本山町内で桜を見て、さめうら荘で食事をし早明浦ダム周辺の桜散策をした。
9 月 21 日	こくふ福祉の村まつり・買い物	利用者、家族、職員、地域住民、ボランティアなどが、こくふで実施されている村まつりに出かけ、地域交流と相互理解を深めた。 中山間地域での生活で、日頃行くことが出来ない大型スーパーでの買い物を体験した。
10 月 28 日	ねんりんピック 2013 よさこい高知イベント参加	高知市中央公園にて、利用者が碁石茶の試飲提供と販売の体験をした。
11 月 3 日	大豊町町民文化祭	地域の文化祭に参加して、カレーライス・ポップコーンの販売と、地域の人との交流をした。
11 月 22 日	秋のクラブ活動	徳島県祖谷方面の施設（ふれあい公園、石の博物館、かずら橋等）見学や体験、紅葉の散策を楽しんだ。
12 月 2 日	あったかハート ふれあい大会	れいほく地区福祉イベントに参加。カレーライス、ポップコーンの販売を行ない、「地域とつながる就労支援」講演を聞き学んだ。
12 月 26 日	クリスマス忘年会	一年間の労をねぎらい利用者が計画・進行を行い、職員、地域保健師等の出席により会食、ゲームで親睦を深めた。

(4) 利用者主体の自治会「シエル」活動尊重

地域で生活する利用者の方が社会人としての義務と責任を果たし、成長していくことを目標にして、主体的活動を尊重し支援している。作業時間内であっても、必要であれば自治会のために時間を設け、行事の買物や郵便局への自治会費入出金などの支援を行なった。

4 支援実施の状況

(1) 利用者の状況

ア 利用者性別・年齢別構成状況

(平成26年3月31日現在)

区分	男	女	計	身障	精神	知的	身障/知的
20歳未満							
20～29歳	2	1	3		1	2	
30～39歳	1	1	2		1	1	
40～49歳		2	2		1		1
50～59歳	1	1	2	1	1		
60～69歳	1		1	1			
70歳以上							
計	5	5	10	2	4	3	1
平均年齢	40.8歳	41.2歳	41.0歳	57.5歳	41.0歳	30.3歳	40.0歳

イ 手帳の交付状況

(平成26年3月31日現在)

身体障害者手帳		
等級	性別	年齢
1級	男	52
6級	男	63

療育手帳		
等級	程度	性別
B 1	男	26
B 2	女	29
B 2	女	36

身体障害者手帳・療育手帳			
等級	程度	性別	年齢
3級	B 2	女	40

手帳なし		
障害	性別	年齢
精神	女	47
精神	女	54
精神	男	34
精神	男	29

ウ 町別状況

(平成26年3月31日現在)

性別	町 村	大豊町	本山町	土佐町	計
男性		1	1	3	5
女性		2	3	0	5
計		3	4	3	10

エ 稼働率推移

利用者延日数（平成21年7月開所）

町区分	H21年度計	H22年度計	H23年度計	H24年度計	H25年度計
大豊町	742	1,056	1,071	750	646
土佐町	0	289	337	365	397
本山町	0	94	400	716	732
合計(A)	742	1,439	1,808	1,831	1,775
開所日数(B)	182	252	256	252	253
稼働率(A)/(B)	4.1	5.7	7.1	7.3	7.0

(2) 基本的な日常就労活動の指導、支援に努めた。

就労活動の指導方針は、個別支援計画に基づき実施した。

個人個人のニーズと適性を的確に把握し支援を行った。

(3) 医療、疾病の予防、健康管理とその維持に努めた。

医療サービス状況

ア 時期に応じて自己管理の徹底を促した。

イ 定期検診を行ない、未受診者のないよう配慮した。

ウ 加齢に伴う疾患（生活習慣病等）の予防とその対策に留意した。

エ 保健衛生や健康に関する相談を受けた。

オ 通院や入院は利用者やその扶養義務者の責任においてお願いした。

利用者が専門医師などの診断、治療を必要とする場合は、本人の希望する病院または協力病院において受診、治療をお願いしている。

協力病院名	診療科目	所在地
嶺北中央病院	内科・外科・その他	本山町本山 620

内部疾患の方や、未服薬者も加齢とともに血圧上昇があり、健康診断結果などから見ても成人病予備軍となっている。

ア 毎月体重測定、血圧測定を行ない、自己管理の意識付けを行うとともに、健康維持に努めた。

イ 視力測定がいつでも行なえるように準備した。

(4) 昼食と健康管理

昼食はお弁当を持参か、実費購入（店舗で購入のための送迎または弁当の発注）にて対応した。

国府寮診療所において健康診断の実施を行った。

5 平成 25 年度利用者の在籍状況および理由別入退所状況

区分 月	毎月 1日現在 在籍者数	入所前の状況						退所理由							
		家庭	医療機関	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	その他	計	社会復帰		家庭	医療機関	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	死亡	その他
								就職	自営						
25年4月	10									1					
5月	9														
6月	9														
7月	9														
8月	9									1					
9月	9	1				1									
10月	9														
11月	9														
12月	9		1			1									
26年1月	10														
2月	10														
3月	10														
計	112	1	1			2			2						

6 授産活動

(1) 作業内容

障害特性に応じた作業手順や担当作業に配慮した作業を実施した。障がいをカバー、補助するための作業用自助具(滑り止めシート、紙折り自助具等)工夫をして、作業効率や流れが円滑になるよう作業活動を行った。一つの作業を数名で行い、作業の役割や担当を決めて流れ作業により効率化を図った。作業内容としては、衛生用品、木工用品、シール貼り、掛け紙折り、農作業、野菜の販売、大豊町の特産銀不老豆の選別や碁石茶の袋詰め、セット詰め等を行っている。新たに平成 25 年 5 月より、ティーバッグ箱詰め等の作業を行っている。

(2) 作業内容別の状況

ア ミニパック

単価が低い、昨年より作業の受注が多く収入増となった。

イ 菊水酒造

作業種類は増えたが、作業の受注は少なく収入減となった。

ウ ばうむ合同会社

マグネット作業のみだが、受注数が多く収入増となった。

エ (株)ハート

梱包紙の折りと綿の分別作業を行っていたが、作業で綿ぼこりが他の作業(製品)に混入の恐れがあるために作業中止、収入減となった。

オ 農作業

畑で収穫した野菜を地域施設や個人に販売して、収入増となった。

カ 印刷

姉妹施設ウィール社の印刷(名刺、年賀状等)の窓口を行った。また障害者優先調達法により地域自治体等からの依頼があり、収入増となった。

キ 土佐の風

大豊町の特産である銀不老豆の選別や碁石茶の粉末等の袋詰め、セット詰め等を行い収入増となった。

ク 碁石茶協同組合

大豊町特産である碁石茶の袋詰めやティーバッグの箱詰め等を行い収入増となった。

ケ その他

大豊町碁石茶協同組合の碁石茶各種を仕入れて地域のイベントで販売した。

(3) 売上状況

詳細については下記のとおりである。

	24 年度	25 度	前年対比
ミニパック	257,728	316,783	59,055
菊水酒造	401,934	377,727	-24,207
ばうむ	45,852	49,980	4,128
ハート	39,815	9,015	-30,800
ヘイワ原紙	72,761	-	-72,761
農作業	63,210	99,760	36,550
印 刷	270,735	472,855	202,120
土佐の風	62,556	194,082	131,526
碁石茶	-	139,153	139,153
その他	125,538	183,271	57,733
合 計	1,340,129	1,842,626	502,497

今後への課題

- 1 平成 26 年 3 月末日、定員 10 名に対し利用契約者 10 名となっている。年度を通じての稼働率は 70% であり、通院や健康上、または家庭の都合で休まれる方が多い。平成 26 年度は 12 名の契約人数と稼働率 80% 以上を目指し施設経営の安定化を図りたい。
- 2 平成 26 年度の収入はプラス（黒字）を目標としたい。開所来の赤字はすぐには解消は困難であるが、単年度を黒字にすることを当分の間の目標にしたい。
- 3 中山間地域という、地理的・物理的な厳しい条件はあるが、ご利用者の工賃を小遣い程度から、生活費の一部となると感じとってもらえる収入としたい。
- 4 現在の受託作業の多い就労活動から、急な工賃アップは難しい。しかし少なくとも、通所されることに対する楽しい作業場づくり、仲間づくり、役割づくりと少しでも多い社会参加の機会づくりに努めたい。